

The power of saliva!

# 11

「DNA特別講演会」

# ダエキのチカラ

**歯科医療を変える！知られざるダエキのチカラ！**

Dental Next Action 特別講演会 (DNA 特別講演会) は、歯科の未来をみなさまと共に創りたいという想いのもと生まれました。毎回、時代の変化や新たな兆しをいち早く捉え、歯科医院としてできることを考え、未来を創造していただけるような企画をお届けしております。

第 11 回のテーマは、“ダエキのチカラ”。ここ数年、唾液が持つ様々な作用がクローズアップされるようになりました。食べものの消化を助けることはもちろん、口腔内の洗浄、緩衝、自浄作用など、歯科医療の観点からもその働きについて再注目されています。演者の先生方には、明日から貴院の診療に取り入れられる、様々な知見や研究に基づいた知られざる“ダエキのチカラ”についてお話をいただきます。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。



ネット配信限定！1ヶ月の振り返り・見逃し受講も可能です！

1ヶ月間 ネット配信

2020年4月12日(日)~5月11日 ご都合に合わせて受講可能

### 有川 量崇 先生

日本大学松戸歯学部 衛生学 教授

日本大学松戸歯学部卒業、2001年米国コロンビア大学公衆衛生学部海外派遣研究員、日本口腔ケア学会(評議員、編集委員会委員)、日本口腔衛生学会(代議員、広報委員会副委員長、編集委員会委員)、女子栄養大学栄養科学研究所客員教授



### 開業医ができる唾液からはじめる全身疾患予防

#### ～疫学データから～

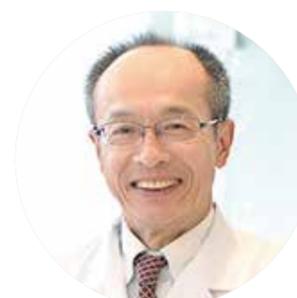
超高齢社会において、高齢者に対する歯科医療の積極的な参加は重要です。私達は100歳健康長寿者の継続調査を実施しており、硬い食材を食べられる者が長生きであることを報告しました。当然、この“食事”には唾液が重要な役割を持ちます。しかしながら、千葉県の75歳1万人を対象に実態調査をしたところ、口の渇きを訴える者が約3割、RSSTの3回未満の者が約1割と多い結果でした。

ドライマウス患者の原因の一つとして酸化ストレスがあげられ、私達は、口腔環境が悪いと酸化ストレスが高いことを疫学データで報告しています。このような背景から、ただ口腔環境を良好に保つだけでなく、抗酸化物質により良好に口腔環境をコントロールすることにより、全身が健康になる可能性も秘めていることが分かります。今回はそのようなデータを示し、抗酸化物質についても説明します。

### 笹野 高嗣 先生

東北大学名誉教授、医療法人徳貞会グループ 医療法人明徳会理事長

1979年東北大学歯学部卒、1998年東北大学教授(口腔診断学)。これまで、東北大学歯学部附属病院長、東北大学歯学部長、東北大学大学院歯学研究科長、東北大学病院総括副病院長、日本口腔診断学会理事長などを歴任。長年の研究にもついで診療技術はテレビや新聞などに数多く報道されている。現在は、医療法人徳貞会グループ あすと長町デンタルクリニック、クオーツタワー 青山クオーツデンタルクリニック等の歯科診療所にて診療の傍ら、医療法人 徳貞会顧問、NPO法人うまインフォメーションセンター理事、東北大学名誉教授を兼務。



### 味覚障害と唾液の深い関係

#### ～Umamiは唾液を増やし味覚障害を改善する～

マスコミ等で報道されているように、味覚障害やドライマウスは確実に増加しており、歯科医院を受診する患者も増えています。では、味覚障害やドライマウスの患者が来院されたとき、歯科医院では、どのように対応されているのでしょうか?

味覚障害とドライマウスのキーポイントは、「唾液」です。唾液が減ると口の中が渇いて荒れて、味もわからなくなるのです。Umamiを多く含む昆布だしを用いて唾液を増やし、味覚障害を改善することができます。Umamiによる“味覚-唾液反射”を応用したこの方法は、薬に頼らない安心・安全な治療法として、テレビや新聞など多くのマスコミに取り上げられています。

今回は、歯科医院が対応すべき味覚障害とドライマウスについて分かりやすく解説し、歯科医師だけでなく、歯科衛生士、コ・デンタルスタッフ(受付、アシスタント、栄養士含めた)でのチーム医療なども含めたUmamiによるユニークな治療法(訓練)を紹介します。

### 鈴木 浩司 先生

日本大学松戸歯学部 口腔健康科学講座 顎口腔機能治療学分野 准教授

日本大学松戸歯学部卒業後、研究科修士(歯学)、2012年Faculty of Health Science, The University of Sydney留学/(一社)日本補綴歯科学会(代議員、指導医、専門医)/(一社)日本スポーツ歯科医学会(代議員、認定医)/日本睡眠歯科医学会(理事、指導医、認定医)/(公財)日本オリンピック委員会強化委員会(医-科学スタッフ)/(公財)日本スポーツ協会公認スポーツテスト/(公財)全日本空手道連盟強化委員会医学担当



### 運動中の唾液パワーを失わないために

#### ～スポーツを通じた新たな歯科医院の役割～

運動中に水分補給のみならずバナナや栄養ゼリー食品などの栄養補給(補食)を行うことはよく知られた事実である。また、最近では熱中症予防のため、積極的なスポーツドリンクの摂取が推奨されている。しかしながら、脱水や口腔乾燥が発生している環境下での飲食には注意が必要で、競技者を含めたスポーツ愛好家のためのオーラルヘルスケアの在り方を考えないといけない。

一方、口腔乾燥を惹起する悪習癖の一つに口呼吸があり、運動時や睡眠時などに発生する口呼吸はその質を低下させるため看過できない。演者は日常臨床の中で様々な口呼吸対策を行っており、効果を得ている。

そこで本講演では、唾液を運動という側面から考え、適切な水分補給やマウスガード装着時の注意、あるいは口腔乾燥対策として歯科医師が行う呼吸調整等についてもお話させていただきます。

### 押村 憲昭 先生

愛知県名古屋市中区 押しむら歯科 副院長

2010年 愛知学院大学歯学部 卒業  
2011年 愛知学院大学歯学部附属病院臨床研修医終了  
2014年 おしむら歯科勤務  
2017年 大阪大学歯学部歯学科学会人文学部入学



### 地域包括ケア時代に生きる歯科医院の在り方

#### ～歯科医科連携のこれからと未来～

医科歯科連携という言葉が世に出始めて長い年月が経ちます。しかし、現実では医科歯科連携は思ったように進んでおりません。

私は現在 皮膚科、内科、産婦人科、整形外科、耳鼻科など10施設以上の先生たちと積極的に連携をしています。あるクリニックの先生とは医院のパソコンをクラウドで繋いでお互いの情報が見られるようにしています。また、ある皮膚科、内科の先生のところには唾液検査、デンタルミラーを置いて皮膚科、内科の患者さんの口腔内チェックをして唾液検査を行い口腔内の状態を見てもらっています。おそらく従来の連携ではありません。そして、お互い気になることがあれば積極的に相互に紹介しています。我々の願いは地域の患者さんの健康長寿を伸ばすこと。私たちは、その鍵は歯科医師、医師が自らの専門分野以外の疾患にいかにかアンテナを張るか?だと思っています。

私の夢は全医療機関に唾液検査装置が導入されること。そして、スクリーニングをし他科で歯科受診を促す。健康長寿は歯が悪くは成り立ちません。地域の先生が一丸となり色々なことに目を配り、すぐに地域の他科の先生を紹介できるシステムが構築できれば必ずや日本の医療費は下がり、変わっていくと確信しています。そのお話を私の得意分野である皮膚疾患と歯科治療、糖尿病と歯科治療との話に織り交ぜながら、明日からみなさんが医療連携ができるところまで落とし込んで参りたいと思います。

### ネット配信 お申込み方法

ご自宅! ご診療室! 講演会をネット配信いたします。ライブでの受講も、1カ月の振り返り・見逃し受講も可能です!

ネット配信のお申込み

<https://academy.doctorbook.jp/contents/2269>

【受講料】 **3,300円** (税込)

詳しくは



ホームページにてご確認ください。

お申込みページ ▶



DNA(Dental Next Action)とは、私たちヨシダが歯科医療の次の時代を、先生方とともに共創していく企業活動です。この活動の一環として、DNA特別講演会を開催し、歯科医療の新しい時代を創るため、予防医療の推進、歯科と医科との連携推進、事業継承、チェアサイドでのコミュニケーション方法など、歯科の新たな学びをご提案し続けていきます。